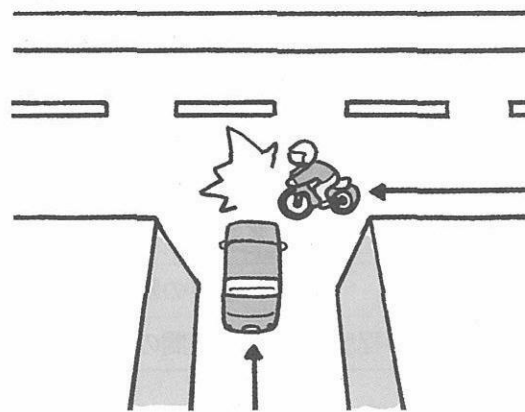


事例36 自転車で走行中、乗用車と接触し転倒する

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験1年、50歳代の女性
作業	通勤途上
災害の型	交通事故（道路）
起因物	乗用車
傷病	全身の打撲傷
災害の程度	1ヶ月の休業災害



2 発生状況

介護労働者が、利用者宅に向かうとき、自転車で歩道を走行中、側道から進入してきた乗用車と衝突し、自転車ごと左側に転倒した。その際、左半身側の頭、肘、腕、大腿部等を強打した。

3 原因

- (1) 側道が狭く車通りも少ないので、車が来ないだろうと考え、そのまま直進してしまった。
- (2) スピードを出していたため、車に気づいても止まりきることができなかった。

4 対策

(1) 事業者

- ① 交通災害が起こりやすい場所等を書き込んだヒヤリハットマップを作成し、提供する。
- ② 交通安全教育を定期的に行う。
- ③ 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 「～だろう。（車が来ないだろう。）」運転をやめ、「～かもしれない。（車が来るかもしれない。）」運転をする。
- ② 交差点にさしかかる時は、一時停止する。

事例37 バイクで走行中、飛び出したネコと衝突し転倒する

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験3ヶ月、50歳代の女性
作業	通勤途上
災害の型	交通事故（道路）
起因物	ネコ
傷病	肋骨骨折（ヒビ入り）
災害の程度	1.5ヶ月の休業災害



2 発生状況

介護労働者が、バイクで利用者宅に向かうとき、脇道から急にネコが飛び出してきたため、避けきれずにネコと衝突した。

衝突したはずみで、左前方に投げ出されるように転倒した。その際、左半身部等を強打した。

3 原因

- (1) スピードを出していたため、飛び出したネコを避けることができなかった。
- (2) 飛び出しに対する予測をしていなかった。
- (3) 道路の端を走っていたため、飛び出したネコを避けるスペースがなく衝突した。

4 対策

(1) 事業者

- ① 交通安全教育を定期的に行い、制限速度等を遵守させる。
- ② 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 制限速度を守り、飛び出し等があっても対応できるようにしておく。
- ② 道路の端によりすぎないように走行する。
- ③ 「～だろう。（車が来ないだろう。）」運転をやめ、「～かもしれない。（車が来るかもしれない。）」運転をする。